

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2373700315
法人名	有限会社 政経
事業所名	グループホーム尾西蓮池の家
訪問調査日	平成 19 年 11 月 14 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 24 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2373700315
法人名	有限会社 政経
事業所名	グループホーム尾西蓮池の家
所在地	愛知県一宮市蓮池郷東20-2 (電話)0586-67-3711

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中種区内山一丁目11番16号		
訪問調査日	平成19年11月14日	評価確定日	平成19年12月24日

## 【情報提供票より】(19年10月20日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 15 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	25 人
職員数	21 人	常勤	818 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 4,

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1	階建ての	1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有 (入居一時金含む)	有200000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1500 円			

## (4) 利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	25 名	男性	8 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	8 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80, 68 歳	最低	59 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	森医院
---------	-----

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣のあちこちに野菜畑が散在する長閑な環境に恵まれた鉄骨平屋建て3ユニットのグループホームである。玄関の一部は季節の切花や鉢植えの花がいっぱいに飾られ、季節を感じ記憶を呼び覚ますための配慮かと思えるほどである。利用者は車椅子を使って自由にユニット間を行き来し、職員とも顔馴染みになりそのフロアーでくつろいでいる場合もある。利用者からの声で始まった玄関前での朝のラジオ体操は身体機能維持のために継続的に行なっている。身体的介護の必要な人が優先されがちな中でもホームでは個々の特性を把握して、散歩や外出、或いは歌を一緒に歌うなど万遍な支援に努めている。家族の面会は多く利用者や職員との関係は良好である。地域との交流は子供会や秋祭りへの参加など通じて円滑に進んでいる。職員は理念である「優しく穏やかな介護」を実践しているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題については全職員が努力して取り組み、改善している。先回の改善課題の1つである食事については弁当であったがホームで調理する日が増え食事が「美味しい」と利用者から評判もよい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は各ユニット毎でミーティングなどを行い取り組んでいるが、各評価項目の着眼点を理解されて取り組まれることを期待する。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は概ね2ヶ月毎に開催している。ホームの現状や行事報告、入院中の利用者の対応等、出席者の意見を聞いて運営に反映している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に管理者は健康状態や日常生活の状況報告を手紙で送付している。また「蓮池の家だより」を年3回ほど作成して送付している。家族からの意見、苦情、不安はホーム来訪時や電話で職員が聞いている。それをミーティングで話し合い改善している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し地域の秋祭り、子供会、老人会、フルート演奏やマジックショーなどのボランティア活動の意思を受ける等地域との交流はできている。又小学校、中学校との交流もあり運動会などに招待されている。畑で収穫された野菜などのおすそわけにあづかるなど良好な関係が出来ている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の「優しくおだやかな介護をめざします。」のもとで職員は日々の生活の中で実践している。	○	グループホームの理念を、地域との交流や地域生活の継続を踏まえた地域密着型サービスとしての理念を考案されることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関の見やすい所に掲示されている。職員は定期的な全体ミーティングなどで理念の周知を図り日々の業務の中で実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には入会している。地域の秋祭りや子供会のお祭り、中学校の運動会などの行事に参加して地域との交流はできている。また畑で収穫されたとうがんや大根など近隣の住民からおすそわけがあるなど良好な関係である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価を意義のあることと理解しておりユニット毎に話し合い作成している。身体拘束についてなど自己評価で見出された課題については検討して車椅子の移動時に安全ベルトをはずし改善にむけている。また外部評価については真摯に受け止め、改善に向け話し合いをしている。	○	各評価項目の着眼点を再度理解して取り組まれることを期待する。
		○運営推進会議を活かした取り組み			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2ヶ月毎の開催である。内容はホームの啓発や活動状況報告などである。それにより地域の人との交流が増え、収穫した野菜などをもらえるようになった。	○	運営推進会議のホーム外部の参加者から意見や質問をもらえるように職員で会議の内容を絞り検討して取り組まれることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市の福祉課に介護に関する相談やホームの状況などの報告をしている。また介護相談員の受け入れもしており、先回はホーム内を見学し利用者とは話をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には健康状態や日常の暮らしぶりの報告をしている。管理者は月1回家族に近況報告を踏まえた手紙を送付している。また金銭管理は家族の確認のサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族との関係も良好でホーム来訪時に意見、不満、苦情が言い易い雰囲気づくりを気にかけている。家族からの意見や要望はミーティングを開き検討し改善している。それを運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少なく利用者との関係は良好である。又、平屋建てのホームのため利用者は他のユニットの職員とも顔馴染みとなっている。離職者が出たときには職員全員で業務をカバーしている。新人職員には慣れるまで利用者の事を良く理解し良い関係を築いている職員が一緒に行動して利用者の不安を和らげるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修課程が入社段階別にありそれを受けるシステムになっている。又市の開催する講習にはできるだけ参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームとの交流会や市の開催する講習会など職員は参加してサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族にホームを見学してもらい利用者に対する職員の言葉遣いや接し方、ホーム全体の雰囲気をつかんでもらい、生活していくうえで安心感を持たれるよう配慮している。ホームに適應していくのに問題がありそうな時は、職員数名が訪問して対応する事がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者からの声で始まった午前中のラジオ体操、合唱等一緒に過ごすことから学んだ事を活かして穏やかに楽しく生活出来るよう配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常の生活で会話や顔の表情からどうゆう暮らし方がしたいのか、真意を把握したり、家族から聞いたりして楽しみと生きがいを持って暮すことができるように配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者やその家族と関わる中で聴いたこと、知ったこと、思ったことを基本的に全職員が参加するカンファレンスで取り上げ、利用者が自分らしく暮すことを目標にした介護計画の作成に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し期間は介護計画に記載されており、職員が情報を確認し、利用者や家族の要望を取り入れ期間が終了する前に見直し。状態が変化した時はその時々で検討、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族・利用者の要望に応じて通院や入院の送迎をしたり、家族のいない利用者の入院中の洗濯物の管理も行っている。入院した利用者を頻繁に見舞い元気つけることが、早い回復と退院のための支援に繋がることを願い、また、退院後の受け入れについても全職員が理解を示した対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医院は家族にまかせ、家族が対応できない時には職員が通院介助を行なっている。特定の病院がない利用者には施設のホームドクター又は協力医の受診について支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常勤で看護師が数名いるため出来る限り対応している。家族やかかりつけの医師と頻繁に話し合い、利用者に対して最善の対応をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように、職員は会話や態度に十分な配慮をしている。個人情報の保護に関する配慮も徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出、買い物に行きたい利用者の希望は職員の都合ではなく優先的に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	弁当から始まり現在は週2日利用者の育てた野菜や近隣からもらった野菜を利用して、嗜好と栄養を配慮した食事作りをしている。食器片付け等出来る事は職員と楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、曜日を決めて実施しておりゆったり入浴を楽しめる配慮をしている。毎日希望している利用者には他の日はシャワー浴を利用している。またリフトも設置して重度の利用者にも対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の草取り、針仕事、食器の片づけ等している。職員が踊る日舞鑑賞、カラオケ、お盆の花火、バーベキュー、お月見、その時々に合わせて楽しむ支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週1回の喫茶店、希望による買い物、カラオケで思う存分歌うなどの支援や桜、チューリップ、アジサイの花見、紅葉を楽しむことの支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関から自由に外に行き、それを事務所、居間の窓から見ることが出来る。外に行きたがっている利用者を視察しそれとなく声をかけ一緒に行動したり、自由に行ってもらい危険がないようにそれとなく観察している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回実施している。1回は消防署員の指導によって避難訓練したり、色々な指導を受けている。災害が生じた時は近隣の避難場所としてホーム敷地を民生委員を通して地域の人に知らせている。	○	夜間の場合の連絡方法や対応のマニュアルを作り、常に見える所に掲示し、職員が速やかに対応できるようにしたい。



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は詳しく毎食記録している。栄養バランス、カロリー、水分摂取量は把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	人目でわかるカレンダーで歳月が解る。居間の窓は大きく窓から見える景色で季節を楽しむ事が出来る。台所は利用者、職員が顔を見ながら話ながら作業出来る配置になって、お互いの動きが確認できる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	すっきり清潔感のある居室になっている。ベッド生活の利用者に対して、外の景色が常に見られる位置にベッドが在る。その事により日々の天気、季節を感じる生活ができるような心配りがされている。		